

ボイラーチューブ内面酸化スケール厚さ測定

概要

ボイラーチューブ内面に生成される酸化スケールにより、ヒートスポット等の悪影響が生じ、過熱又は腐食等の原因となり高温下（概ね 450℃以上）に於いて応力負荷状態が続くと最終的には高温クリープ破断に至るケースも出てきます。

弊社では、このような問題を未然に防ぐため、内面スケールの付着状況の測定を行っています。

施工例

測定機器



酸化スケール測定状況

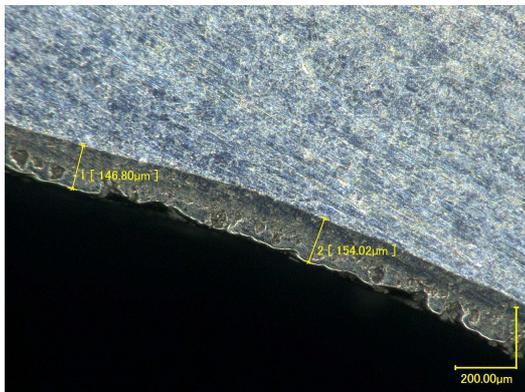


主な特徴

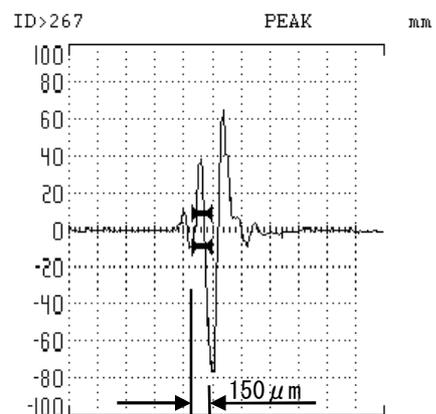
ボイラーチューブ外面より測定し、内面のスケール厚さを 10 μ m 単位で測定します。

測定下限は 80 μ m

測定波形



内面酸化スケール状況



測定波形

装置

GEセンシング&インスペクション・テクノロジーズ社製：クラウトクレマーUSN58L